

“性格がちがう相手”と浮気して挽回？ 個性にまつわるダイトウコノハズクの結婚生活

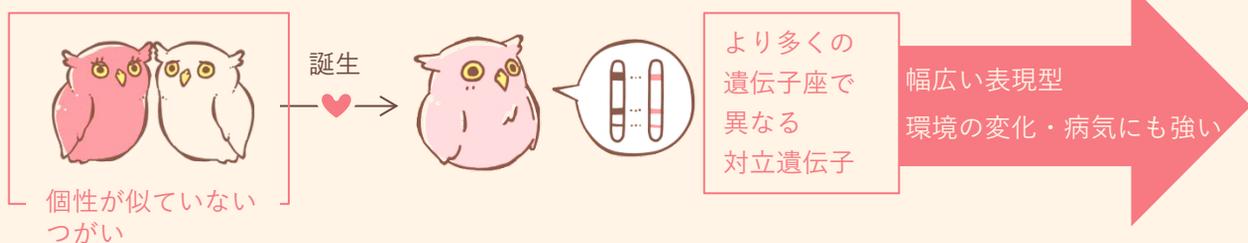


北海道大学 理学部生物科学科4年 小野遥

背景

個性は、人と同様に動物にも見られることが明らかになってきた。近年では、個性が鳥類のつがい相手選びに関与することが示唆されている。また、鳥の個性と遺伝子型の関連性を示す研究例も発表されている。

沖縄県南大東島の亜種ダイトウコノハズクの個体群では、近親交配を避けてつがいが形成されることが分かっている。これらのことから、ダイトウコノハズクは血縁度の指標として個性を用いている、つまり個性が似ていない相手をつがい相手に選んでいると予想される。



しかし、孤島に隔離された小さな個体群には、つがい相手選びに様々な制約が課される。一定数のメスがやむを得ず、個性の似たオスとつがいになる。そして、基本的にそのつがいは解消されない。

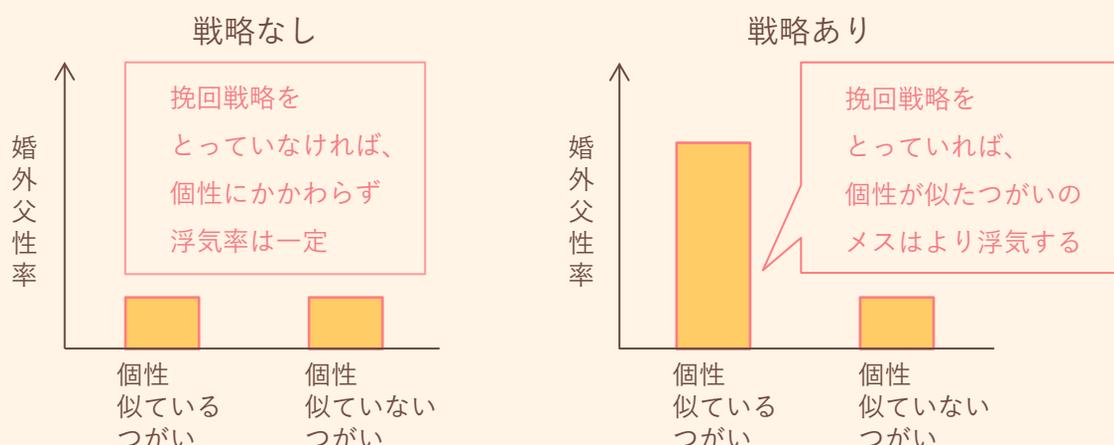
これらの制約を挽回するために、婚外子をもうけるという手段がある。つまり、

個性が似た相手と結婚したメスは、個性が似ていない相手と浮気する

これが、子孫を繁栄させるための“挽回戦略”となるはずである。

目的

個性の似たもの同士、似ていないもの同士のつがいにおける婚外父性率を比較する。メスの“挽回戦略”を実証するため、個性の似たつがいでの高い婚外父性率を示すことを目指す。



方法

2019年3～7月に、沖縄県南大東島の亜種ダイトウコノハズクの繁殖調査を行う。南大東島では毎年およそ60つがいが設置巣箱で繁殖する。

①個性の測定

プレイバック実験を行い、雌雄がなわばり防衛時等に示す攻撃性を個性の指標とする。スピーカーまでの最接近距離や、鳴き返し継続時間等に基づいて攻撃性を数値化 (Galeotti & Paven, 1993) し、つがいの個性を比較する。

②婚外父性率の算出

親子の計測・採血・個体識別を行った上で、血液サンプルから親子関係の判定を行い、各つがいでの婚外父性率を算出する。

③“挽回戦略”の検討

①②より、つがいの個性の一致と婚外父性率の関係を検討する。(上図)

支援金の使途

いただいたご支援は、血液を用いた性別・親子検査の費用、プレイバック実験の機材費や、調査地の離島への交通費に充てられます。